◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 岐阜県美術館【岐阜・宇佐】（https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/events/toki/）

8 月 23 日（土）～11 月 3 日（月）

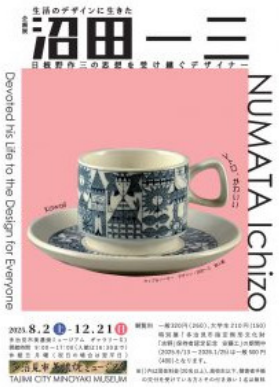
「古墳時代から織部、そして現代へ　－土岐市美濃陶磁歴史館の名品と土岐市の寺社の文化財－」

土岐市美濃陶磁歴史館は昭和 54 年（1979）に開館して以来、古代から現代までの陶磁資料を多数所蔵し、美濃焼や市内の歴史、文化財に関する調査研究、展示公開、教育普及等の事業を展開してきました。現在は建替えのため休館し、令和 11 年（2029）の新博物館オープンを目指しています。また、土岐市にはやきものだけでなく、歴史と美を今に語る文化財も現存し、主に寺社に伝わっています。本展覧会では、土岐市美濃陶磁歴史館のコレクションから選び抜いた名品に、土岐市の寺社に伝わった貴重な文化財を加え、当地で育まれてきた優れた造形美を古墳時代から現代までたどります。元屋敷陶器窯跡出土品（重要文化財）の織部など美濃桃山陶や、土岐市ゆかりの小山冨士夫、塚本快示などの作品、そして仏像、書画など約 70 件を展示します。

2. 多治見市美濃焼ミュージアム【岐阜・多治見】（https://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/archives/6870）

8 月 2 日（土）～12 月 21 日（日）

企画展：「生活のデザインに生きた沼田一三　日根野作三の思想を受け継ぐデザイナー」



本展覧会では兵庫県姫路市出身の陶磁器デザイナー沼田一三（ぬまた　いちぞう 1926～2004）を紹介します。沼田は兵庫県立姫路工業学校の図案科を卒業し、京都にあった国立陶磁器試験所に入ります。そこでのちに陶磁器デザイナーの先駆者となった日根野作三と出会います。また、昭和 24（1949）年には前衛陶芸集団「四耕会」に所属しています。一度は造形の世界に足を踏み入れますが、師である日根野の影響により沼田は陶磁器デザイナーの道を歩むことになります。戦後、日根野が岐阜県東美濃地方に訪れ、美濃焼の産業と関わった縁により沼田は加藤仁らと岐阜県に移住します。　沼田は日根野とともに、熱意を持って陶磁器デザインに取り組みました。沼田のスケッチブックには、多くのデザイン画が残されており、そこから当時の陶磁器デザイナーの仕事の一端を垣間見ることができます。本展では、美濃のクラフトに尽力した日根野作三をはじめ、澤田痴陶人、伊藤慶二などさまざまな作り手と関わりながら、陶磁器デザイナーとして活躍した沼田一三の生涯をその作品資料から辿ります。

3. 滋賀県立陶芸の森【滋賀・甲賀】（https://www.sccp.jp/exhibitions/20132/）

7 月 19 日（土）～9 月 28 日（日

滋賀県立陶芸の森開設 35 周年記念　特別展 「民藝から関係へ－コミュニティデザインの視点から－」

民藝運動の中心メンバーのひとり河井寛次郎(は晩年、【民藝】の思想を基盤に新たな表現を切り拓きました。当時の京都市五条坂では、「四耕会」や八木一夫らが結成した「走泥社」など、【前衛】陶芸の動きも活発化し、多様な価値観が交差していきました。また、1990 年代以降には、非日常的な出会いや協働を契機とする【関係】を通じたモノづくりのかたちが模索されます。【民藝】の誕生から 100 年、本展では、産地や社会に根ざしたものづくりを再評価するという視点で、ゲストキュレーターにコミュニティデザイナー山崎亮氏を迎えました。山崎氏は、陶芸という営みに多様な人々が関わることで、地域と社会に新たな関係性が育まれることに注目しています。そうした視点から、近現代の歩みを再考し、これからの陶芸の可能性をさぐります。